

白石でっち奉公は、小・中学校の児童生徒が区内のお店や公共施設などで、社会の一員となって実際に就労体験をするカリキュラムで、平成13年に白石区ふるさと会の発案で始まり、現在は白石区ふるさと会と白石区が協力して実施しています。

いつもは学業が本分の子どもたちですが、“でっち奉公”では働くことに挑戦。従業員の一員となり、意欲的に仕事に取り組みました。ちょっぴり背伸びして大人の世界を垣間見た子どもたちの奮闘記です。



3ページから

小学生の部

南郷小学校

- 高橋動物病院
- 名井建築事務所
- 平成苑 デイサービスセンター

7ページから

中学生の部

幌東中学校

- ネットトヨタ札幌(株)東橋店
- スポーツ用品イレブン
- 北海道総合放送 With-S

白石中学校

- 松本フラワー
- 白石保育所
- 札幌市防災センター

北白石中学校

- 北開工営株式会社
- 札幌ゴルフセンター
- びっくりドンキー

東白石中学校

- 札幌円山動物園
- 南郷の湯
- 白石ゴム製作所

北都中学校

- ヘアコレクション あぎらの美容室
- 川北児童会館
- 北白石地区センター図書館

柏丘中学校

- スイス・ドイツ菓子工房ビーネ・マヤ
- コープさっぽろ ルーシー
- 吉田記念病院

小学生の部

南郷小学校 5年生 計93名



*でっち奉公の実施日に上記の受入企業にお伺いし、取材・撮影をしました。

南郷 小学校



家はチームワークで 建てるもの

名井建築事務所

参加した3人はまず、裏手の倉庫で建築資材の片付けを体験。木材や石材、金具など多くの建築資材があることを知りました。軍手をはいていましたが、ホームタイと呼ばれる金具類を扱うのはとても危険なこと。慎重に作業を進めた結果、倉庫はすっかりきれいになりました。次は休む間もなく木材の後片付け。ネコと呼ばれる三輪車に木材を積んでの運搬です。ネコを扱うのは3人とも今日が初めて。バランスをとるのが難しく、何度もひっくり返しながら、何とか片付け終了。気付いたら、みんな泥だらけです。

「大工さんの仕事に興味があります」という3人は、名井社長から「一件の家を建てるには多くの資材を必要とし、大勢の人々が関わっています。みんなが協力することで立派な家が建つのです」という説明を聞きました。そして、3人がこの日最も驚いたのは、家を建てる時に出る多くのゴミ。ダンボールやビニール、さらに大工さんが切ったり削ったりする木材の破片。建築会社の責任として、それらをしっかり分別し、ゴミから資源に再利用していることを学びました。建設の現場を通してエコについても考えることができた貴重な1日となりました。



人と触れ合う 喜びを知る

平成苑 デイサービスセンター

多くのお年寄りが共同で暮らす特別養護老人ホーム。ここを訪れたのは男子2人と女子2人の計4名。最初に任されたのはお掃除でした。男子は下駄箱、女子は車椅子をきれいにします。「下駄箱は高い場所に手が届かなくて、車椅子はタイヤなど磨きにくいところがあって大変だったけれど、きれいに出来たと思います」とニッコリ。

その後、皆さんにお茶を飲みながら「学校は楽しい?」「勉強は何が好き?」などおしゃべりしながら楽しいひととき。その後は絵を描いたり、体操をしたり、盛り沢山の内容。こうしてお年寄りともすっかり仲良しになり、午後からはみんなでどら焼きづくり。こんがり美味しそうに焼けたどら焼きを、みんなで美味しくいただきました。「皆さんとても親切で、あつという間の一日でした。自分のお爺ちゃんやお婆ちゃんにも優しくしたい」と一日を振り返りました。施設の柏木さんは「人とふれ合うことの温かさ、喜びを学んでほしかったんです。今日の4人はそれが出来たのでは…」と4人を優しく見守っていました。



命の重みを学びました

高橋動物病院

あちらこちらから聞こえてくる犬の吠える声。白衣を着たみんなの顔も引き締まっています。「動物が好き」と言っても、ここは動物病院。可愛いから動物と触れ合いたいという考えではつとまらないことを、みんな十分理解しているようです。先生がまず取り出したのは聴診器。これで犬の心臓音を聴いてみました。ドクンドクンと静かに鼓動を打つ心臓。その音に生命の尊さを感じとっていました。次に体験したのはトリミング。専用のブラシで毛並みを整えます。少しもジツとしていない犬にみんな悪戦苦闘。みんなで協力して何とかワンちゃんをきれいにしたら、次はお風呂です。水温に十分注意し、優しくていねいに体を洗います。みんなの気持ちが通じたのか、犬も気持ちよさそうです。

高橋動物病院の高橋先生や近藤先生は「ここで知ってほしいのは命の重み。そして動物病院の裏側です。表面的に見えるのは全体の二割。後の八割は地味で大変な仕事ばかりだということを学んで帰ってほしいですね」。額の汗をぬぐいながらも、命を預かる仕事の充実感に、みんなの眼はいきいきと輝いていました。

